

平成30年6月26日

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会  
児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ 殿

全国連合小学校長会長  
種村明頼

## 児童生徒の学習評価の在り方に関する意見

貴グループにおかれましては、新しい学習指導要領の下での児童生徒の学習評価の在り方について精力的に審議を進められていることに対し敬意を表します。全国連合小学校長会としての意見を提出いたしますので、ご検討いただきますようお願い申し上げます。

### 記

#### 1 学習評価の在り方について

- (1) 学習評価は、子どもたちの学習状況の評価を通して、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ることが目的であることを明確に示していただきたい。
- (2) 深い学びの実現を図るためには、学習のはじめの目標設定や動機付け、学習のまとめや振り返り等、授業の様々な場面で評価を意識した取組を設定し、学習の質的向上を図る必要がある。今後の審議で、深い学びの実現を図るという視点における学習評価の在り方について、更なるご議論をお願いしたい。加えて、その内容を確実に周知していくために、校内研修等で活用できる資料を作成していただきたい。

#### 2 観点別評価の充実を図るために

- (1) 今回の改訂において、全ての教科等で、教育目標や内容を資質・能力の3つの柱に基づいて整理したのは、資質・能力の育成を目指して「目標に準拠した評価」を実質化する取組であるとしている。そして観点を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理された。

教員が3観点到基づいて評価するとき、「知識・技能」が単なる知識・技能の獲得にならないようにするとともに、質的な意味合いをもつ「思考力・判断力・表現力」と情意領域である「主体的に学習に取り組む態度」については、主体的で深い学びに結びつくような評価になる丁寧な説明が必要と考える。

また、小学校は全教科（専科指導の一部を除く）を担当しており、教科毎の評価規準を作成して行くのにはかなりの困難が予想される。評価規準や評価方法等について、学校が作成できるようきめ細かい資料作成をお願いしたい。

(2) 「知識・技能」については、ペーパーテストで評価することが多い。その際、テストでは、習得した知識を確認することの評価だけでなく、学習したことを文章で説明したり、知識を基にして概念との結びつきを様々な手段で述べたりできる資質・能力を評価できるように検討すべきである。「思考力・判断力・表現力」の評価については、教科の特性に応じた表現活動があり、ペーパーテスト以外のパフォーマンス評価やポートフォリオによる評価も有効な方法であるとされている。教科による適切な評価方法についても検討していただきたい。

### 3 教員の勤務負担に配慮した学習評価

(1) 学習指導要領の改訂に伴い、「特別の教科 道徳」や「外国語科・外国語活動」等の新たな教科の設定、教科内容の変更により、指導計画の作成や教材開発、指導方法等の工夫に学校が力を注いでいる。特に、今回は多面的な評価をする観点から文章での記載がこれまで以上に多くなっており、教員の勤務負担の側面から、指導要録の文章表記がどこまで必要なか十分に議論していただきたい。

また、現在、指導要録の開示請求が求められることがあり、所見については表面的なものになっている傾向がある。指導要録を客観的な情報共有の手段とするためにも、文章表記の評価は必要最低限にし、少なくする方向で検討していただきたい。

(2) 評価方法の保護者への説明に煩雑さや労力が伴う実態がある。それらを防ぐために説明資料など保護者向けに作成していただきたい。

### 4 その他

(1) 今回、言語活動やプログラミング教育等が教科横断で示されている。こうした教科横断型の学習をどのように評価すればよいか、学校の理解はまだ十分ではない。評価の視点や評価方法等について具体的で分かりやすい指針を示していただきたい。

(2) キャリア・パスポートとはどのようなものを指しているのか。具体的なものが見えない。今後どのようなものを考え、どのように活用していくか、現場の教員も加えて議論を進めていただきたい。